

## 5.2. 動詞の文法呼応

文法呼応を示す要素は、主語辞（以下S辞）<sup>2</sup>と目的語辞（以下O辞）である。これらはそれぞれ主語名詞と目的語名詞が属している名詞クラスに呼応して動詞に付加される。1クラスと2クラスは人物を表わす名詞のクラスであるが、これらのクラスに呼応するS辞とO辞は、更に人称と数に呼応する。それぞれのクラス、人称、数に呼応するS辞とO辞の形態は表1のとおりである。

<表1：各クラスに呼応する主語辞（S辞）と目的語辞（O辞）>

クラス	名詞クラス接頭辞	S辞	O辞
1 1sg.		n-	-n-
2sg.		gu-	-gu-
3sg.	mú-	dzu-	-mu-
2 1pl.		tu-	-tu-
2pl.		mu-	-mu-
3pl.	bá- (áka-/ á-)	ba-/ a-	-a-
3	mú-	gu-	-gu-
4	mí-	dzi-	-dzi-
5	lí-	lí-	-lí-
6	má-	ga-	-ga-
7	sí-	ki-	-ki-
8	hí-	i-	-i-
9	φ - (n-)	dzi-	-dzi-
10	φ - (n-)	i-	-i-
11	lú-	lu-	-lu-
12	ká-	ka-	-ka-
13	tú-	tu-	-tu-
14	ú-	gu-	-gu-
15	kú-	ku-	-ku-
16	pa-	pa-	-pa-
17	ku-	ku-	-ka-
18	mu-	mu-	-mɔ-
20	gú-	gu-	-gu-

### 5.2.1. 主語辞（S辞）

S辞は、主語になる名詞が属しているクラスに呼応し、常に動詞の語頭に位置する。主語が人物であれば、その人称と数に呼応する。主語名詞が提示されていない場合には、S

<sup>2</sup>S辞は4.1.3.で示した代名詞接頭辞と同じ形態の接辞であるが、主語名詞と文法呼応する動詞接辞としての機能を明らかにするため、ここでは「主語接辞（S辞）」として別に扱う。

辞は主語を示す代名詞として機能する。

### 5.2.1.1. 各クラスに呼応する S 辞

以下に、動詞 -hábuk-「落ちる」を用いて各クラスに呼応する S 辞の例を示す。後ろに páhi「下」を伴って、「～が倒れている, 落ちている」という意味になる。活用形は完了現在形である。完了現在形は時制辞が付かないので, S 辞がそのまま現われる (5.6.1.1.2. 参照)。場所クラスである 16~18 クラスの例には、動詞 -twélel-「いっぱいになる」を用いる。場所クラスの名詞は sũmba「部屋(9)」にそれぞれの場所クラスの接頭辞をつけたものである。

cl 1.	mundu dzu- hábwiki páhi	mũndu	「人 sg.」
cl 2.	bandu a- hábwiki páhi	bãndu	「人 pl.」
cl 3.	ŋkɔŋgu gu- hábwiki páhi	ŋkɔŋgu	「木 sg.」
cl 4.	míkɔŋgu dzi- hábwiki páhi	míkɔŋgu	「木 pl.」
cl 5.	lilólí li- hábwiki páhi	lilólí	「鏡 sg.」
cl 6.	malólí ga- hábwiki páhi	malólí	「鏡 pl.」
cl 7.	sĩndu ki- hábwiki páhi	sĩndu	「物 sg.」
cl 8.	hĩndu i- hábwiki páhi	hĩndu	「物 pl.」
cl 9.	ndólɔsa dzi- hábwiki páhi	ndólɔsa	「イヤリング sg.」
cl10.	ndólɔsa i- hábwiki páhi	ndólɔsa	「イヤリング pl.」
cl11.	lũhandzu lu- hábwiki páhi	lũhandzu	「薪 sg.」
cl12.	kãmwana ka- hábwiki páhi	kãmwana	「赤ちゃん sg.」
cl13.	tũmwana tu- hábwiki páhi	tũmwana	「赤ちゃん pl.」
cl14.	ũpendi gu- hábwiki páhi	ũpendi	「弓 sg.」
cl15.	kũbɔku ku- hábwiki páhi	kũbɔku	「腕 sg.」
cl20.	gũlinu gu- hábwiki páhi	gũlinu	「牙 sg.」
cl16.	pasũmba pa- twêli bãndu		「部屋は人がいっぱいだ」
cl17.	kusũmba ku- twêli bãndu		「部屋のあたりは人がいっぱいだ」
cl18.	ŋsũmba ku- twêli (17) bãndu		「部屋の中は人がいっぱいだ」

スワヒリ語では、主語が人物や動物などの有生名詞であれば、それが属するクラスに係わらず、1/2クラスに呼応した S 辞をとるが、マテング語では主語が有生名詞であっても、S 辞は主語名詞の属する名詞クラスに呼応した形態をとる。

limbélele	li-bútŵike	「羊(5)が走った」
kípesa	ki-bútŵike	「ウサギ(7)が走った」
ŋômbi	dzi-bútŵike	「牛(9)が走った」

マテング語の場合、主語名詞の名詞クラスと S 辞が不規則な呼応をするのは、18 クラスの名詞である。18 クラスの名詞は、17 クラスの S 辞 ku-に呼応する。

1) mwikibêga	ku - píŋile	「土鍋の中が汚れている」
「土鍋の中(18)」	S(17) - 現在完了形「汚れる」	

1) cf. *mwikibêga	mu - píŋilite	
「土鍋の中(18)」	S(18) - 現在完了形「汚れる」	

#### 5.2.1.2. 1 人称の S 辞

1 人称単数の S 辞 n- は単独では音節をなすことができず、後続する形態素によって以下のような現われ方をする。

##### ◆ 時制辞が後続する場合

時制辞が続く場合はそのまま付加され、時制辞の母音と一しょに 1 音節をつくる。

2) nasápíti	íngobu	liso	「昨日私は服を洗った (完了過去)」
n - a - sá - pí - ti	íngobu	lisú	
S1sg - 過 T - 「洗濯する」 - 完 F	「服(9/10)」	「昨日」	

3) nísɛŋga	ŋúmba	pámwaka	「私は来年家を建てる (単純未来)」
n - í - séŋg - a(dʒɛ)	ŋúmba	pámwaka	
S1sg - 未 T - 「建てる」 - 非完 F	「家」	「来年」	

4) nakálɔmba	ŋômbɛ	「私は牛を買ってくる (移動未来)」
n - aká - lómb - a(dʒɛ)	ŋómbi	
S1sg - 移 T - 「買う」 - 非完 F	「牛」	

## ◆ ○辞が後続する場合

○辞と同じ母音（例文のグロスではVで表わす）が挿入されて1音節をつくる。

## 5) nugubóníte gwênga

「私は君を見かけた」

nV - gu - bón - íí gwénga

S1sg - O2sg - 「見る」 - 完 F 「君」

## 6) nilíbola sámáténgó

「私はマテング語を勉強している」

nV - lí - ból - a sámáténgó

S1sg - Ref - 「教える」 - 基 F 「マテング語(7)」

## 7) nakákéngéka kamwána

「私は赤ちゃんを両手で抱く」

nV - ka - kéngék - a kamwána

S1sg - O(12) - 「両手で抱く」 - 基 F 「赤ちゃん(12)」

## ◆ 動詞語根に直接付く場合

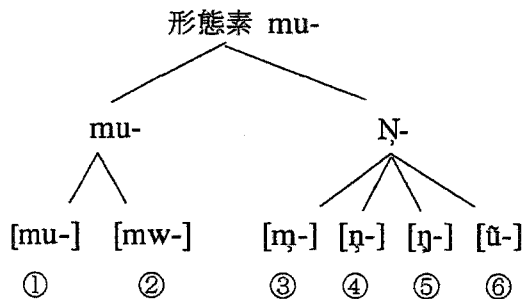
音節はつくらず、語基頭の子音を以下のように鼻音化する（3.3.3.参照）。

語基頭子音		「私は～する」	語基	
n- + p	→	mb	mbúla	-púl- 「吹く」
n- + b	→	m	mêka	-bék- 「置く」
n- + t	→	nd	ndênda	-ténd- 「する」
n- + k	→	ng	ngôma	-kóm- 「殺す」
n- + g	→	ŋ	ŋômba	-góm- 「手を叩く」
n- + s	→	ndz	ndzúsua	-súsu- 「消す」
n- + dʒ	→	ɲ	ɲáŋgatilá	-dʒáŋgatil- 「助ける」
n- + m	→	m	méména	-mémén- 「噛む」
n- + n	→	n	núŋganika	-núŋganik- 「不平を言う」
n- + ɲ	→	ɲ	ɲâta	-ɲát- 「火にあたる」
n- + ŋ	→	ŋ	ŋóŋateka	-ŋóŋatek- 「批難する」
n- + h	→	hĩ	hênga	-héng- 「働く」
n- + l	→	n	nômba	-lóm- 「買う」

## 5.2.1.3. 2人称のS辞

2人称複数のS辞  $mu-$ <sup>3</sup>は、後続する形態素によって異なった現われ方をする。時制辞もしくはO辞<sup>4</sup>が後ろに付く場合には $mu-$ で現われる。その場合、形態素の境界で母音が重なれば、S辞の母音は半母音化して $mw-$ となる。時制辞もO辞もなく、動詞語根に直接S辞が付加される場合には、その語根が鼻音以外の子音で始まっていれば、S辞の母音が脱落し、音節主音的鼻音として現われる。音節主音的鼻音は後接する子音と同調音点になる(ただし、後続する子音が/h/の場合には、音節主音的鼻音は $\eta$ になる)。語根が鼻音で始まっていれば、 $mu-$ の子音が脱落し、鼻音化した $u-$ 、すなわち $\tilde{u}-$ で現われる。これをまとめると図1のようになる。

<図1：形態素  $mu-$ の異形態とそれぞれが現われる環境>



- ① 時制辞もしくはO辞(1人称単数以外)に付く場合
- ② 後ろに続く形態素との境界で母音が重なる場合
- ③ 子音 p, bで始まる動詞語根に直接付く場合
- ④ 子音 t, l, s, d<sub>3</sub>で始まる動詞語根に直接付く場合
- ⑤ 子音 k, g, hで始まる動詞語根に直接付く場合
- ⑥ m, n, ŋで始まる動詞語根に直接付く場合

以下に2人称複数のS辞の現われ方の具体例をあげる。左列のN-で現われる例は「単純現在形」で、時制辞が付かない活用形である(5.6.1.3.1.参照)。右列の $mu-$ で現われる

<sup>3</sup>  $mu-$ は2人称複数のS辞であるが、丁寧に言う場合には、単数形の主語でも $mu-$ が用いられる。

$mu-hikádze$  「来てください」 cf.  $gu-hikádze$  「来なさい」

<sup>4</sup> ただし、1人称単数のO辞は除く(5.2.2.1.参照)。

例は「確認未来形」で、この活用形には時制辞 *-i-* が付く (5.6.1.3.2.参照)。1 人称単数の場合と比較するため、例には同じ動詞語幹を用いる。

単純現在形	確認未来形		
ŋ- púl-a	mwí ( mu- í ) - pul-a	-púl-	「吹く」
ŋ- bék-a	mwí- bek-a	-bék-	「置く」
ŋ- ténd-a	mwí- tend-a	-ténd-	「する」
ŋ- kôm-a	mwí- kôm-a	-kôm-	「殺す」
ŋ- gômb-a	mwí- gômb-a	-gômb-	「手を叩く」
ŋ- sús-a	mwí- susu-a	-sús-	「消す」
ŋ- dzáŋgatil-a	mwí- dzáŋgatil-a	-dzáŋgatil-	「助ける」
ũ- mémen-a	mwí- memen-a	-mémen-	「嘯む」
ũ- nuŋganik-a	mwí- nuŋganik-a	-núŋganik-	「不平を言う」
ũ- jât-a	mwí- jat-a	-jât-	「火にあたる」
ũ- ŋóŋatek-a	mwí- ŋóŋatek-a	-ŋóŋatek-	「批難する」
ŋ- hěŋg-a	mwí- hěŋg-a	-hěŋg-	「働く」
ŋ- dôm-b-a	mwí- lôm-b-a	-lôm-b-	「買う」

#### 5.2.1.4. 3 人称の S 辞

3 人称単数の S 辞は *dzu-* であるが、以下の場合には、主語名詞が単数であっても、3 人称複数に呼応した S 辞 *a-* が用いられる。

- ① 2 人称複数, 3 人称単数の O 辞 *-mu-* (5.2.2.2.参照) が後ろに続く場合。
- ② 主語がはっきり誰とは特定されない場合

8) ámpôfite 「彼 (ら) は彼 / 君たちにぶつかった (完了現在)」

a - mu - pót - ití

S - O2pl/3sg - 「ぶつかる」 - 完 F

9) twé atulápuwile 「我々は誰かに殴られた = 誰かが我々を殴った (完了現在)」

twé a - tu - lápul - ití

「我々」 S - O1pl - 「殴る」 - 完 F

①と②以外の場合には、主語名詞が単数形であればS辞は d3u-で現われる<sup>5</sup>。

10) d3watekela ηgɔ̃ndi 「彼女は豆を料理した (単純過去)」  
 d3u - a - tékel - a(d3ɛ) ηgɔ̃ndi (時制辞が後続)  
 S - 過 T - 「料理する」 - 非完 F 「豆(9/10)」

11) d3ugupỗtite 「彼は君にぶつかった (完了現在)」  
 d3u - gu - pôt - - ití (-mu-以外の○辞が後続)  
 S - O2sg - 「ぶつかる」 - 完 F

主語名詞が複数形の場合、呼応するS辞には a-と ba- の2種類がある。上記の①と②の場合には必ず a-で現われる。一方、必ずba-で現われるのは、例 12, 13 のように -a-以外の形で現われる時制辞が後続する場合である。例 13 ではS辞は過去を表わす時制辞に後続されている。この時制辞は本来は -a-であるが、その後ろに○辞が入る場合には○辞の母音と同化するので (5.5.1.1.参照) -a-では現われない。このような場合にもS辞は ba- である。

12) bílɔ̃mba ηɔ̃mbe 「彼らは牛を買うだろう (単純未来)」  
 ba - í - lɔ̃mb - a(d3ɛ) ηɔ̃mbi  
 S - 未 T - 「買う」 - 非完 F 「牛(9/10)」

13) bugúpỗtite 「彼らは君にぶつかった (完了過去)」  
 ba - a - gu - pôt - iti  
 S - 過 T - O2sg - 「ぶつかる」 - 完 F

必ずa-で現われる環境と必ずba-で現われる環境以外、つまり、主語が誰であるか特定されていて、○辞-mu-も -a-以外の現われをする時制辞も後ろに続かないという環境では、S辞の a-と ba- は区別なく用いられる。

14) bagupỗtite / agupỗtite 「彼らは君にぶつかった (完了現在)」  
 ba/a - gu - pôt - ití (-mu-以外の○辞が後続)  
 S - O2sg - 「ぶつかる」 - 完 F

<sup>5</sup> ただし、2人称の場合と同様に、尊敬の意を表わす場合には、主語名詞が単数形であっても、複数形に呼応したS辞を用いる。その場合は、その他の文法呼応においてもすべて3人称複数形として振る舞う。

## 15) babutuka másobá goha / abutuka másobá goha

「彼らは毎日走る (単純現在)」

ba/ a - bútuk - a másobá goha (動詞語根が直接後続)

S - 「走る」 - 基 F 「日々(6)」 「すべて(6)」

## 5.2.1.5. 複数の主語名詞がある場合

複数の名詞が並列して主語になる場合、それらが同じクラスに属する名詞であれば、そのクラスと対になる複数形のクラスに呼応したS辞をとる。並列している名詞が異なるクラスに属する場合には、属するクラスに関係なく、8クラスのS辞をとる。

## 16) likólo ni líhimba mapíle 「おかずもヤム芋も煮えた (完了現在)」

likólo na líhimba ma - pí - íí

「おかず(5)」 等位 「ヤム芋(5)」 S(6) - 「煮える」 - 完F

## 17) madzabu nu úlehi idzélamwíke

「キャッサバとシコクピエが溢れている (完了現在)」

mádzabu na úlehi i - dzélamuk - íí

「キャッサバ(6)」 等位 「シコクピエ(14)」 S(8) - 「溢れる」 - 完F

ただし、人物を表わす名詞とそれ以外の名詞を並列にすることはできない。人物を表わす名詞と人物以外を表わす名詞の両方が行為者の場合には、例 18 のように一方を主語にして、もう一方は「同伴」として表わす。

## 18) kapénga dzwahábwiki páhi na dzímbwa

「カピंगा氏は犬といっしょにころんだ」

kapénga dzu- a - hábuk - íti páhi na dzímbwa

「カピंगा氏」 S(1) - 過T - 「落ちる」 - 完F 「下」 随伴 「犬(9)」

## 18') dzímbwá dzahábwiki páhi ná kapénga

「犬はカピंगा氏といっしょにころんだ」

dzímbwa dzi- a - hábuk - íti páhi na kapénga

「犬(9)」 S(9) - 過T - 「落ちる」 - 完F 「下」 随伴 「カピंगा氏」



例 18, 18'のように「同伴」として表わされる場合も、例 16 や 17 と同じく *na* が用いられるが、この場合には、*na* は等位接続語としてではなく、随伴を表わす前置詞として機能している<sup>6</sup>。

### 5.2.1.6. 物語の場合

物語が語られる場合に用いられる物語形では、主語の人称、数、クラスに関係なく常に 15 クラスに呼応した S 辞をとる。この場合には時制辞はとらない。

19) *sánakápesa, udzándza gwáke gwôha kudzómwike*

「ウサギは、そのずるがしこさがすべて終わりました (完了過去)」

*sánakápesa, udzándza gwáke gwôha kú - dzómok -iti*

「ウサギ(7) 「ずるがしこさ(14)」 「彼の(14)」 「すべて(14)」 S(15) 「終わる」 - 完了 F

物語形は、物語が語られる場合にだけ用いられる、言わば「特殊な」形である。ただし、物語がすべてこの形で語られるわけではなく、通常の活用形が用いられることもある。また、この物語形の語尾に基本語尾 *-a* 以外の語尾が用いられる<sup>7</sup>のは物語の最後の一文に限られる。本論文では物語形を各活用形の「特殊な場合」として扱い、独立した活用形としては扱わない。

### 5.2.2. 目的語辞 (O 辞)

O 辞は、目的語名詞の人称、数、名詞クラスに呼応する接辞で、動詞語根の直前に付加される。O 辞の形態は表 1 を参照のこと。

目的語名詞を提示する代わりにその名詞に呼応した O 辞を付けると、O 辞は目的語を示す代名詞として機能する。目的語名詞が提示されている場合には、O 辞を付けないのが普通である。ただし、「その～」という限定の意味を目的語名詞に加える場合には、目的語名詞が提示されていても O 辞を付ける。また、目的語名詞が人物を表わす場合には、目的語名詞が提示されていても、O 辞は必ず付加される。

<sup>6</sup> 例 18 は「同伴」だけでなく、「犬のせいでカピング氏がころんだ」という解釈もできる。

<sup>7</sup> 「15 クラスの名詞クラス接頭辞 *ku* - 動詞語基 (5.3.参照) - 基本語尾 *a*」というのは、つまり動詞の不定形である。

リミ (Rimi) 語 (Hualde 1989:185) , ナンデ (Nande) 語<sup>8</sup> (Hualde 1990) , テンボ語 (梶 1984:12) など, バンツー諸語の中でも, ひとつの動詞に〇辞を2つ付加することが可能な言語も紹介されているが, マテング語の場合には, ひとつの動詞に〇辞は1つしか付加することができない。「目的語」と考えられる名詞が2つある場合の〇辞の呼応については, 5.4.4.「適用形」で述べる。

### 5.2.2.1. 1人称単数の〇辞

1人称単数の〇辞 n-は, 単独で音節を作ることせず, 1人称単数のS辞が動詞語根に接続する場合と同様に, 語根頭の子音を鼻音化する。具体的な現われ方は, 1人称単数のS辞の場合 (5.2.1.2.参照) を参照されたい。

20) dʒupimua lukéla

「朝, 彼女は私を起こす」

dʒu - n - dʒímu - a lukéla

S3sg - O1sg - 「起こす」 - 基 F 「朝」

1人称単数の〇辞が付加される場合, 動詞語根頭の子音が鼻音化するので, そこに別の形態素があることは音韻的には認められるが, 実際の形態素は動詞語根に縮約されてしまう。声調やその他の振る舞いを見ても, 他の〇辞が付加された場合とは異なっている。

例えば, 2人称複数のS辞は, 後ろに〇辞が続く場合にはmu-で現われる。しかしながら, 例21が示すとおり, 1人称単数の〇辞が続く場合は, 〇辞が入らない場合の異形態u-で現われている。また例22'のように, 未来形の時制辞-i-は, 〇辞が続く場合には-á-で現われるが (5.5.1.3.参照), 例22の1人称単数の〇辞の場合には, -i-で現われている。例23と23'の右側にHとLで示したのはそれぞれの声調パターンである。〇辞が入らない場合の声調パターンは例23"に示したが, 1人称単数の〇辞が付加されている例23の声調パターンは, 〇辞が入らない例23"と同じである。

このように, 〇辞が付加されている場合とされていない場合で現われ方が異なるものに関して, 1人称単数の〇辞が付加された場合は, 常に「〇辞が付加されていない場合」と同じ現われ方になる。

<sup>8</sup> ナンデ語の場合には, 一方の目的語は動詞語根の直前に位置する〇辞が呼応を示すが, もう一方の目的語は, 〇辞とは別の位置に現われる接辞, つまり, 動詞の末尾に位置する接辞が呼応している。従って, 正確には〇辞が2つついているのではなく, 目的語に呼応する接辞に2種類ある, ということになる。またリミ語, テンボ語の場合も一方が1人称単数に呼応する場合に限られるなどの制限がある。

- 21) umôla másobá gôha 「君達は私を毎日教えている」  
 mu - n - bôl - a másobá gôha  
 S2pl - O1sg - 「教える」 - 基 F 「日々(6)」 「すべての(6)」
- cf. 21') mutúbôla másobá gôha 「君達は我々を毎日教えている」  
 mu - tu - bôl - a másobá gôha  
 S2pl - O1pl - 「教える」 - 基 F 「日々(6)」 「すべての(6)」
- 22) dzwíngesela mápăhi 「彼は私のために草刈りをするだろう」  
 dzu - í - n - késel - a(dʒe) mápăhi  
 S3sg - 未 T - O1sg - 「~のために草刈りをする」 - 非完 F 「草(6)」
- cf. 22') dzwágukesela mápăhi 「彼は君のために草刈りをするだろう」  
 dzu - í - gu - késel - a(dʒe) mápăhi  
 S3sg - 未 T - O2sg - 「~のために草刈りをする」 - 非完 F 「草(6)」
- 23) dzwamútúkile ( L H H L L ) 「彼は私を追いかけた」  
 dzu - a - n - bútukil - i(ti)  
 S3sg - 過 T - O1sg - 「追いかける」 - 完 F
- cf. 23') dzugúbutúkile ( L H L H L L ) 「彼は君を追いかけた」  
 dzu - a - gu - bútukil - i(ti)  
 S3sg - 過 T - O2sg - 「追いかける」 - 完 F
- 23'') dzwabútúkile ( L H H L L ) 「彼は追いかけた」  
 dzu - a - bútukil - i(ti)  
 S3sg - 過 T - 「追いかける」 - 完 F

#### 5.2.2.2. 2人称複数と3人称単数の○辞

2人称複数と3人称単数の○辞は-mu-であるが、いずれも異形態である音節主音的鼻音-N-の形を常にとり、続く子音と同調音点の鼻音で現われる(ただし続く子音が/h/の場合には-n-)。

1, 3, 18 クラスの名詞クラス接頭辞と2人称複数のS辞も N-という現われ方をする場合があるが、これらはいずれもmu-の異形態である。これに対し、2人称複数と3人称単数形のO辞は、名詞クラス接頭辞やS辞の場合と違って常に -N-で現われ、-mu-として現われることがない。しかしながら、これを -mu-の異形態であると考えるのは次のような根拠による。

過去形の時制辞 -a-は、後ろにO辞が続く場合にはO辞の母音と同じ母音で現われる(5.5.1.1.参照)。その際O辞が -N-の場合には時制辞は /u-/で現われる。(以下の例文はすべて過去完了形で「君はそれを～した」の意)。

- 24) gu - a - N - pətiki → gu - u - N - pətiki gúmpotiki 「傷つけた」  
 25) gu - a - lu - golwili → gu - u - lu - golwili gulúgolwili 「洗った(11)」  
 26) gu - a - ki - kadzwili → gu - i - ki - kadzwili gwíkákadzwili 「割った(7)」  
 27) gu - a - ma - bagiti → gu - a - ma - bagiti gwamábagiti 「分けた(6)」

この時制辞の現われ方を見ると、O辞には母音/u/があったはずである。このことから、2人称複数と3人称単数のO辞は本来 -mu-であって、子音が後ろに来る場合には母音が脱落したと考えられる。

ここで、これまで述べてきたS辞とO辞について、-pál-「愛する」という動詞を例に、これらがどのように組み合わせられて用いられるかを表2にまとめて示す。表中の例文は完了現在形で、「[S辞]は[O辞]を愛している」の意味である。なお、「私が私自身を～する」のような再帰形については次節で述べる。

<表2：人称に呼応するS辞とO辞の組み合わせ>

	1sg. (私を)	2sg. (あなたを)	3sg. (彼を)	1pl. (我々を)	2pl. (君たちを)	3pl. (彼らを)
1sg.		nugupāīle	numpāīle		numpāīle	naapāīle
2sg.	gumbāīle		gumpāīle	gutupāīle		gwapāīle
3sg.	dzumbāīle	dzugupāīle	ampāīle	dzutupāīle	dzumpāīle	dzwapāīle
1pl.		tugupāīle	tumpāīle		tumpāīle	twapāīle
2pl.	mbāīle		mumpāīle	mutupāīle		mwapāīle
3pl.	bambāīle ambāīle	bugupāīle agupāīle	ampāīle	butupāīle atupāīle	bumpāīle	aapāīle baapāīle

## 5.2.2.3. 再帰辞が〇辞になる場合

各クラスに呼応する〇辞の他に、再帰辞 *-li-* が〇辞として用いられる場合がある。再帰時は、クラス、人称、数、に関係なく常に同じ形で現われる。通常は他動詞に付加され、その動詞を自動詞化する。

<i>-hjék-</i>	「かぶせる」	<i>-li-hjék-</i>	「かぶる」
<i>-ból-</i>	「教える」	<i>-li-ból-</i>	「学ぶ」
<i>-húl-</i>	「脱ぐ、脱がせる」	<i>-li-húl-</i>	「脱皮する」
<i>-gólol-</i>	「まっすぐにする」	<i>-li-gólol-</i>	「身体をのぼす」

動詞の中には常に再帰辞 *-li-* を伴って現われるものもある。これらが ( ) 内に示したような再帰辞 *-li-* の付かない形で現われることはない。

( * <i>-hón-</i> )	<i>-li-hón-</i>	「身繕いをする」
( * <i>-kéndamul-</i> )	<i>-li-kéndamul-</i>	「すりむく」
( * <i>-džék-</i> )	<i>-li-džék-</i>	「好き勝手にする」

## 5.2.2.4. 形態素の境界で母音が重なる場合

## 5.2.2.4.1. 時制辞と〇辞の場合

時制辞と〇辞の母音が境界で重なる場合、これらは融合されることなく、2つの母音として現われる。

28) *džwaábutúki bǒmbe* 「彼はあの人たちを追いかけた (完了過去)」  
*džu - a - a - bútuk - il - i (ti) bǒmbí*  
 S3sg - 過T - O3pl - 「走る」 - AP - 完F 「あの人たち」

29) *džwáabutukja bǒmbe* 「彼はあの人たちを追いかけるだろう (単純未来)」  
*džu - í - a - bútuk - il - a (džε) bǒmbí*  
 S3sg - 未T - O3pl - 「走る」 - AP - 非完F 「あの人たち」

30) *náigolula kilábo* 「私は明日それ(8)を洗う (単純未来)」  
*n - í - i - gólol - a(džε) kilábu*  
 S1sg - 未T - O(8) - 「洗う」 - 非完F 「明日」

○辞は常に時制辞とは逆の声調で現われるので（後述），重なる母音は必ず異なる声調で現われることになる。しかしながら，声調が異なる母音が重なった場合はいつでも母音が2つに保たれるというわけではなく，これは時制辞と○辞の場合だけである。例 31 が示しているように，重なる母音の声調が異なっても，それがS辞と時制辞の場合であれば，それらは融合する。

- 31) bágu**bomb**ila kibêga 「彼らは君に土鍋を作るだろう（単純未来）」  
 ba - í - gu - bómb - il - a(dʒɛ) kibéga  
 S3pl - 未T - O2sg - 「作る」 - AP - 非完F 「土鍋(7)」

#### 5.2.2.4.2. S辞と○辞の場合

S辞と○辞の境界で母音が重なる場合，例文 32, 33 のようにそれらが同じ母音の場合には，融合されることなく2母音とも残る。

- 32) naahjátwīle 「私は彼らを殴った（完了現在）」  
 nV<sup>9</sup> - a - hjátul - ití  
 S1sg - O3pl - 「殴る」 - 完F

- 33) aatōndwīle 「彼女たちは彼らをののしった（完了現在）」  
 a - a - tōndol - ití  
 S3pl - O3pl - 「ののしる」 - 完F

これは長母音とは区別される。もしこれらの母音が融合して長母音化したのであれば，後ろに3音節以上続いた場合，その長母音は短母音化するはずである（3.2.2.参照）。しかしながら，これらの母音は後ろに3音節以上続いても2モーラを保っていることから，これは長母音ではなく，ふたつの連続する短母音であると考えられる。

例文 34 のように違う母音が重なる場合には半母音化が起こる。

- 34) gwalómbīle 「君は彼らに買ってあげた（完了現在）」  
 gu - a - lómbil - ití  
 S2sg - O3pl - 「～に買う」 - 完F

<sup>9</sup> このVは「○辞と同じ母音」を表わす（5.2.1.2.参照）。ここでは母音の振る舞いをわかりやすくするためにVを示したが，次節以降は示さない。

母音が形態素の境界で重なる例ではないが、母音/u/をもつS辞の直後にO辞が付く場合、S辞とO辞の間に挿入母音が入ることがある。これは自由変異である。挿入母音はO辞の母音と同じ母音である(3.2.2.参照)。挿入母音が入るとS辞の母音/u/が半母音化するので、結果的にCwVで現われる。

35) dzu - dʒi - bɔ́pɔl - ití → dʒwidʒibɔ́pwile / dʒudʒibɔ́pwile  
 S3sg.- O(9) - 「放つ」 - 完F 「彼はそれ(9)を放った(完了現在)」

36) gu - ga - bág - ití → gwagabágite / gugabágite  
 S2sg.- O(6) - 「配る」 - 完F 「君はそれ(6)を配った(完了現在)」